



トヨタ財団レポート

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT

ISSN 0389-1984

163-04 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル37F
Phone: 03-3344-1701~3
Fax: 03-3342-6911

October 1993

No.66

2	研究助成の選考を終えて
3	研究助成対象一覧
6	市民活動助成の選考を終えて、助成対象一覧
7	国際助成の選考を終えて
8	国際助成対象一覧
12	「隣プロ」翻訳出版促進助成の運営および選考について、助成対象一覧
14	最近の報告書から、市民活動リンクアップ・フォーラムの実施
15	公募のお知らせ
16	新刊紹介、他

第68回理事会を開催

助成対象に186件を決定

去る9月21日、当財団の第68回理事会が都内にて開催され、1993（平成5）年度の各助成対象に関する審議と決定が行われた。その結果、研究助成、市民活動助成（第1期）、国際助成、「隣プロ」翻訳出版促進助成など合計186件、総額にして3億8,621万円の助成が決定された。おもな内容は以下のとおり。

■研究助成は53件、1億9,026万円

助成対象の内訳は、個人奨励（第I種）研究が25件、試行・準備（第II種）研究が19件、総合（第III種）研究が9件となっており、申請総数757件から見た採択率は7%と、これまで同様厳しいものとなった。対象となった研究課題は多岐にわたり、問題に対するアプローチも多彩であった。内容的には、従来どおり、研究を通して広く社会のニーズに応えようとするものが多かった。本年度の特色としては、個人奨励研究（第I種）での継続案件への助成（5件）および試行・準備（第II種）研究における国際共同研究案件への助成（16件）が目立っている。

（P2～5参照）

■市民活動助成は9件、1,530万円

本年度第1期の市民活動助成については、122件の申請があったが、このうち助成対象は9件、採択率は7.3%となっている。採択された多くは、「草の根」の視点から今後の個人と社会のあり様を考えていく際に重要な示唆をもたらすであろう、今後の展開と成果の波及を期待できよう。（P6～7参照）

なお、本年度の第2期分の公募は、本年12月15日まで行っている。詳しくは「市民活動助成係」まで。（P15参照）

■国際助成は91件、1億445万円

東南アジア諸国各地の「固有文化の保存と振興」に関する現地の人々による研究や事業に重点を置いたこのプログラムでは今回91件が採択となった。国別では昨年同様ヴェトナムへの助成が23件と目立っている。なお、うち11件は、「マレーシア東南アジア研究奨励助成」の助成対象。（P7～11参照）

■「隣プロ」翻訳出版促進助成は26件、5,417万円

日本と他のアジア諸国およびアジア諸国相互間の理解促進を狙いとした“隣人をよく知ろう”プログラムでは、書籍の翻訳・出版を促進するための助成として「日本向け」13件、「アジア相互間」13件をそれぞれ対象とした。（P12～13参照）

■その他

「計画助成」の助成対象として6件、1,754万円が決定。また、「成果発表助成」対象1件の報告・承認が行われた。

■第19回助成金贈呈式を10月12日に開催

豊田英二会長の挨拶に始まり、第19回助成金贈呈式を東京・新宿区内のホテルにて開催。（P16参照）

■第7回市民研究コンクールの公募を10月15日より開催

「身近な環境をみつめよう」をテーマに第7回市民研究コンクールの公募を来年1月15日まで実施中。詳細は、「市民研究コンクール係」まで。（P15参照）

■市民活動リンクアップ・フォーラムを定期的に開催

第1回目は、11月27日に広島で実施。（P14参照）

1993年度 研究助成の選考を終えて

理事長

研究助成選考委員長 飯島 宗一

◎選考経過と結果について

9月21日の理事会において本年度研究助成対象として53件、総額1億9,026万円が決定した。その内訳は、個人の若手研究者の奨励を目指す第Ⅰ種研究が25件、3,986万円、グループによる試行・準備のための第Ⅱ種研究が19件、6,870万円、総合的展開を目指す第Ⅲ種研究が9件、8,170万円となっている。

以下に、この決定に至るまでの経過の概略をご報告する。

本年度公募は従来どおり4月1日から5月31日にかけて行われた。今回の応募総数は757件で、昨年度の681件に比べ増加したが、この10年間で見ればほぼ平均値(=747件)である。種別に見ると、第Ⅰ種研究が397件(平均329件=過去10年平均。以下同様)、第Ⅱ種研究が318件(平均366件)、第Ⅲ種研究が42件(平均42件)となる。ちなみに第Ⅰ種の397件は、1982年度に研究種別を設定して以来の最高値を記録した。

選考は6月から8月にかけて行われ、第Ⅰ種研究については6人の専門委員、第Ⅱ種・Ⅲ種研究については10人の選考委員が分担して個々の申請の評価と、第Ⅰ種で2回、第Ⅱ種・Ⅲ種では3回にわたる委員会での審議にあたった。各委員は大部の申請書のみならず、継続案件については過去の報告書も精読し、さらに7月末に行われた経過報告会での報告内容も加味して個別の評価を行った。委員会での審議では、各委員の評価結果を踏まえながらも、単純に合計点のみに依るのではなく、ひとりの委員でも推薦があればその案件については丹念に議論し、必要とあれば保留扱いとし再評価を経た上で採否を詰めていった。もとより選考システムに完全ということは何れもないが、各委員には最善の努力を尽くしていただいたものと感謝している。

◎採択課題について

第Ⅰ種の個人奨励研究で採択されたものの特徴を見ると、海外の大学・大学院に所属する日本人の申請が25件中10件で昨年に比べ倍増している。反面、在日・在外の外国人の

採択は5件で昨年を下回った。これらの申請者はいずれも日本の公的な補助金などを得にくい立場にある方々である。個々の申請についてはもっぱら内容本位に選考が行われたが、結果としてこうした立場の方々の申請が多く採択されることとなった。また、例年に比べ継続申請が多かったのも今年の特徴で、これらについては特に継続の必要性も評価に加味した上で、5件を採択とした。

第Ⅱ種・Ⅲ種研究では例年同様、採択課題のほとんどが国際共同研究となっている。またそのうち5件は外国人を代表とするものである。昨年からの登場した旧ソ連との共同研究についても、3件(No.45,47,50)が第Ⅲ種研究として継続採択となったほか、あらたに第Ⅱ種で2件(No.33,43)が採択となった。中国との共同研究も数年来コンスタントに採択されてきたが、本年度も第Ⅱ種で5件(No.26,31,36,39,44)、第Ⅲ種で2件(No.46,53)がそれぞれ採択となった。トヨタ財団の国際共同研究はこれまでも欧米先進国よりいわゆる途上国との共同が多く、相手国が抱える問題に対する研究協力という性格が強かった。そこでは対先進国共同とは異なる共同研究の進め方が模索されてきたが、さらに中国や旧ソ連など社会体制の異なる国々との共同研究ではそれぞれの国情を踏まえて、またあらたな共同の枠組みが考慮されねばならないだろう。財団の助成がそのような枠組みの基礎づくりにつながれば幸いである。

財団では昨年からの外部の専門家に依頼して研究助成のこれまでの実績の評価を行ってもらっている。その報告とこれにもとづく今後のあり方への提言はまもなくまとまる予定であるが、平行して財団内部でも様々な見直しを進めてきている。これまで公募に際して掲げてきた「新しい人間社会の探究」という基本テーマと、「高度技術社会への対応」および「多文化社会への対応」という2つの重点課題についてもいまいちど主旨設定の原点に戻って再考することとしたい。

1993年度 研究助成対象一覧

第I種(個人奨励)研究 [25件: 3,986万円]

注 研究題目末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。
助成金額下の()は、助成期間を示す。無記入は1年間。

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
1	北部タイの日系企業で働くタイ人労働者の社会人類学的研究－文化衝突とその後の社会変容－	平井 京之介	ロンドン大学社会人類学部	170
2	痴呆老人家庭介護者の人生における介護経験の意味－生きがいと介護経験の関わりについての日本人・日系米国人・米国人(白人)間の比較研究－	山本 則子	カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学部	120
3	中国少数民族地域の都市化に伴う物質循環の構造的変化と都市・集落環境の変容	菅野 博貢	東京大学大学院工学系研究科	160
4	他者との共存へ向けて－中東の多宗派都市アレppoにおける紛争と共存のメカニズムの歴史学的解明－	黒木 英充	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	170
5	フィリピンにおけるスペイン人コミュニティの役割とその衰退－アメリカ・日本体制期を通じて－	ロドリゴ・プロンティニ	東京大学大学院総合文化研究科	170
6	日本人の異文化適応－アメリカ多文化社会における日本人移住者の老後－	金本 伊津子	オレゴン大学大学院人類学部	170
7	医療と宗教、協調の試み－カトリックの聖地ルルドにおける医療事業の歴史と展望－	寺戸 淳子	日本学術振興会	180
8	途上国の開発に伴う社会紛争の解決におけるNGOの役割－マレーシアの事例を中心として－	大石 幹夫	ブラッドフォード大学平和学部	150
9	森林伐採がヤクシマザルの食性、分布、遊動にもたらす影響の評価による、猿害の発生機構の解明－人とサルとの共存の論理にむけて－	デヴィッド・エイ・ヒル	エジンバラ大学	180
10	難民問題に関する国際政策決定過程の力学－カンボジア難民に対する政策決定及びその実施の再考－	當麻 英子	サウスウェストン大学政治学部大学院	180
11	紙からみた日韓両国の家族原理形成過程－昭和15(西暦1940)年、「創氏改名」を中心とした戸籍と族譜の社会技術史－	坂元 真一	東京大学大学院総合文化研究科	126
12	アルゼンチンにおける日系人社会－80年代以降の日本への出稼ぎ移住とそのインパクト－	ヒガ・マルセロ・G	東京大学大学院総合文化研究科	120
13	非永住型在日外国人のコミュニケーションと機縁的コミュニティ形成過程に関する調査	高梨 成子	(財)未来工学研究所	150
14	日本における受療者による医療評価の指標化とその臨床応用に関する研究－韓国・米国・日本の臨床現場の内容分析をふまえて－(継2)	今中 雄一	日本医科大学医療管理学教室	200
15	朝鮮の内政改革と井上角五郎	鄭 光 燮	上智大学法学部	150
16	パキスタン北西辺境州ブネール地方における古代仏教寺院遺跡群の考古調査に基づくガンダーラ文化複合現象の比較研究	藤原 達也	慶應義塾大学大学院文学研究科	150
17	生殖医療技術と文化・社会の相関関係－不妊治療技術と胎児診断技術における「選択」(継2)	柘植 あづみ	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	150
18	ベトナム北部における村落と都市の文化人類学的研究－戦争と社会主義と海外企業進出が人々の生活に与えた影響－(継2)	高岡 弘幸	ハノイ総合大学ベトナム研究協力センター	120
19	アマゾン河下流における民間医療パジェランサの医療人類学的研究－映像による治療者・被治療者の相互関係の分析を中心として－	松岡 秀明	カリフォルニア大学バークレー校人類学科	180
20	植民地下朝鮮における公娼制度研究	山下 英愛	梨花女子大学校女性学科	140

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.66

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
21	ブエノスアイレスにおける多文化言説のネットワーク-1900年から1930年まで-	石井 康史	スタンフォード大学スペイン・ポルトガル語学科	180
22	アジアにおける西洋人の建築活動とその変遷に関する基礎的研究-ポルトガル・スペインの旧植民地関係資の比較をとうして-(継2)	西山 宗雄 マルセロ	東京大学生産技術研究所5部 藤森研	180
23	日本の看板文化の特質を考える-アジア諸国の看板文化との比較を通して-(継2)	立部 紀夫	神奈川県立神奈川工業高等学校デザイン科	160
24	インドにおける大規模水利事業の展開とその水管理に関する実証的研究	南埜 猛	ジョージタウン大学国際関係学部大学院	160
25	古アッシリア期商人の交易活動におけるクレジット及びデポジットシステムの研究-アナトリア文明博物館蔵未公開キュルテペ文書の分析を通じて-	川崎 康司	早稲田大学大学院西洋史学科	170

第Ⅱ種(試行・準備)研究 [19件:6,870万円]

26	水上栽培法による河川、湖沼の水質改善に関する研究	宋 祥 甫 他9名	中国水稲研究所	350
27	東カリマンタンのオランウータンの分布調査と生態管理の方法-低地フタバガキ林地域での総合開発の中での伝統的生業・文化の役割-	鈴木 晃 他3名	京都大学霊長類研究所	350
28	オセアニア小島嶼住民の異文化受容と文化形成に関する研究	印東 道子 他4名	北海道東海大学国際文化学部	360
29	幕末・維新期の風聞集等に見られる瓦版・錦絵類の基礎的研究-民衆の情報収集・分析・活用に関する研究-(継2)	宮地 正人 他7名	東京大学資料編纂所	390
30	人口と家族構成にみるユーラシア諸社会の比較研究-日本・中国・トルコ・ベルギー・スウェーデン社会の基層-	速水 融 他8名	国際日本文化研究センター	390
31	現代中国農村社会の地域史的研究-海寧市村落資料の整理・分析と実地調査による多角的研究-	上田 信 他4名	立教大学文学部	370
32	ブラジルにおける沖縄シャーマニズムの展開-移民のエスニック・アイデンティティと宗教-	大橋 英寿 他2名	東北大学文学部	340
33	ロシアの炭化水素地層における微生物生態の研究	清水 潮 他13名	広島大学生物生産学部	360
34	多文化音楽教育の方法論研究-ピース・ストラテジーとしてのワールド・ミュージック(日本音楽を含む)教材共同開発-	滝沢 達子 他11名	愛知教育大学音楽科	350
35	非開発国モンゴルにおける環境保全と国家形態-低開発国にならないために-	鳥越 皓之 他4名	関西学院大学社会学部	380
36	民衆の視点より見た中国農村変革の研究-華北における村と家族の50年史-	三谷 孝 他10名	一橋大学社会学部	400
37	国連・地域的国際組織・NGO(非政府組織)による選挙支援活動に関する研究-政治文化の多様性と民主化概念の再検討	大芝 亮 他2名	一橋大学法学部	360
38	日本語を母国語とする、英国在住の児童の英語習得過程の解明-統語習得を中心に、英語を母国語とする児童の英語習得過程との比較-	ポール・フレッチャー 他4名	ブリティッシュ大学言語学部	360
39	「大陸の花嫁」策の社会的基盤と戦後日中社会に与えた影響-日中戦争期における青年女子移民政策の経緯と具体的展開に関する研究-(継2)	久保 義三 他6名	武蔵野美術大学	380
40	アフリカ熱帯森林における人と動植物の共存メカニズムを解明する国際共同研究-地域主体型の森林保護モデルの構築を目指して-	丹野 正 他4名	弘前大学人文学部	360

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No. 66

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
41	アジア地域における教育協力の現状と課題－多文化共生社会に向けての教育協力理念の構築をめざして－	赤石 和則 他10名	東和大学国際教育研究所	280
42	アフリカゾウと地域住民の共存を図る緩衝地帯のモデル策定に関する基礎的研究	小原 秀雄 他12名	女子栄養大学	380
43	チェルノブイリ原子力発電所4号炉事故による放射能放出量と事故直後の被曝線量評価に関する研究	瀬尾 健 他4名	京都大学原子炉実験所	330
44	漢字文化圏諸言語間における漢語語彙の比較－日本語教育をはじめ国際間で利用可能な言語教育用基礎資料－	鈴木 武生 他3名	ボリゴット外国語研究所	380

第Ⅲ種(総合)研究 [9件: 8, 170万円]

45	チェルノブイリ核被災の後障害に関する総合研究－医学的調査と社会変動に伴う心理的対応について広島との相補的比較－(継2)	佐藤 幸男 他8名	広島大学原爆放射能医学研究所	930 (2年)
46	中日流通比較研究－日本の経験とこれからの中国の流通革命－(継2)	馮 昭 奎 他11名	中国社会科学院日本研究所	850 (2年)
47	混迷続く旧ソ連邦における科学研究機関の活動状況と今後の動向に関する調査研究 (継2)	市川 芳彦 他4名	中部大学工学部	750 (2年)
48	オーストラリアのアジア系移民に関する国際共同研究－アジア系移民を通じて見る多文化社会の動態－ (継2)	デビッド・P・イブズ 他4名	クィーンズランド大学	750 (2年)
49	計算辞書学に基づく包括的漢字情報データベースシステムの構築	春廻 雀來 他2名	漢英字典編纂所	700 (2年)
50	中央アジア乾燥地における大規模灌漑農業の生態環境と社会経済に与える影響 (継2)	石田 紀郎 他9名	京都大学農学部	1550 (2年)
51	サハラにおける高度技術移転に伴うオアシス社会の変容過程の研究 (継2)	小堀 巖 他15名	明治大学政経学部	1600 (2年)
52	インドネシア伝統工芸に関する日本・インドネシアの共同研究－ジャワ更紗を中心とする歴史・意匠・技術の総合調査－(継2)	小笠原 小枝 他9名	日本女子大学	440
53	中国・四合院民居地区における集住空間の保存再生モデル開発に関する日中共同研究 (継3)	大西 國太郎 他13名	京都芸術短期大学造形芸術学科	600 (2年)

研究助成合計

53 件

19,026

1993年度 市民活動助成（第1期）の選考を終えて

市民活動助成選考委員長 栗原 彬

◎今回の申請概況

本年度・第1期の市民活動助成については、4月1日から6月20日にかけて公募し、応募のあった122件の申請について選考が行われた。その結果、選考委員会での慎重な審査を経て、以下の通り合計9件、1,530万円が助成の対象となった。

今回の申請全体に関する特徴としては、まず、申請数が過去最多（125件）だった昨年度同期とほぼ並ぶ程度に寄せられたことである。最近の申請数の増加傾向とともに、それらの内容等からも、近年の市民活動の量的拡大と質的多样化には、今後の社会を暗示するものがあり、大変興味深い。地域別に見ると、今回も東京を主とする関東地域が58件（前年度同期・67件）及び、大阪を主とする関西地域が27件（同・27件）と、大都市圏に拠点を置く団体からの申請が依然として多い。反面、それ以外の地域からの申請は微増ではあるものの、地域的な拡大傾向が見て取れる。現在の社会状況から判断しても、こうした傾向は今後ますます強まるものと感ずるし、また、大いに期待もしたい。テーマの面では、障害者の自立、環境保護・保全、地域づくり・まちづくり、東南アジアを主とする開発途上国の問題等に関わるもの、及び、市民社会の基盤づくりに役立つものなど、やや傾向が固まりつつあるが、一方で、近年の社会変化に敏感に反応し、自身の活動を基盤にしながらも、個別の活動を越え、社会全体的な視点からの提言的な試みに挑戦していかうとする意欲的なものも多かった。今回は、活動歴と実力のある団体からの申請が目だったが、それらは、地域や現場での問題の変容や深まり、及び、団体自体の成熟・転換の双方を反映しているものと考えられる。こうした点からも、最近の市民活動が、その種の分野のみに止まらず、行政や企業なども視野の範疇に置き、

それらをも意識したネットワーク形成型の活動に成長しつつあること、また、これに伴い、その経済的基盤や組織のあり方を、相当程度自覚的に求める徴候にあることが指摘できよう。しかし、全般的にはまだまだ「問題対処型」のものも多く、その根本を成す個人や社会のあり様を追求しようとする状況に未だ至らず、という感ももつ。また、逆に、市民活動と社会への全体的な目配りを意図する団体が、にわかにアンケート調査や他団体の活動評価に向かう傾向があり、その前に個別で実験的な実践が必要と思われるケースが少なからずあった。

◎選考について

さて、今回の選考については、継続や類似の試みに関する申請が比較的多かったこともあり、各委員から推薦のあったものについては、従来よりもやや収斂する傾向にあった。そして、計画内容を中心に熱心な議論が展開されたが、それらの過程では、独創的で実現性があり、他へのインパクトを感じさせる内容を重視しつつも、都市圏以外の地域からの申請および活動歴は浅くても将来性のある活動にも出来るだけ注目するよう試みた。反面、具体性や真剣味に欠く計画については厳しい意見や見解が出された。今回採択された多くは、“草の根”の視点から、今後の個人と社会のあり様を考えていく際に貴重な示唆をもたらすものと考えられる興味深いもので、これからの展開と成果の波及を期待したい。

なお、今回採択に至らなかった申請については、主に計画立案上のいくつかの点において疑問視され、結果として高い評価が得られず残念な結果となったわけだが、今一度熟慮された上、再度チャレンジいただくことを希望したい。

1993年度 市民活動助成対象一覧

注 題目末尾の継2は、継続2年目を示す。

No	テ マ	代 表 者 名	代 表 者 所 属	助成金額 (万円)
1	南アジアのNGOによるネットワークとアドボカシーに関する研究～インドのNGOを中心として～	斎藤 千宏 他9名	南アジアNGO研究会	170
2	外国人女性のためのシェルター活動に基づく社会的提言活動	三木 恵美子 他24名	女性の家“サーラー”	160

テ	マ	代 表 者 名	代 表 者 所 属	助成金額 (万円)
登校拒否・不登校の児童・生徒に対する教育援助の一環としてのホームスクーリング活動の調査・研究の深化とホームスクーリング活動普及のための土台づくり (継2)		奥地 圭子 他10名	東京シューレ	200
持続的森林利用と国内紙パルプ消費削減のための市民ネットワークづくり		黒田 洋一 他 8名	熱帯林行動ネットワーク	170
大野の地下水を蘇生させる総合的プランの提言		津郷 勇 他24名	大野市の地下水を蘇生させるプロジェクトチーム	180
市民公共セクターの担い手のための実験的・研修プログラムづくり		早瀬 昇 他10名	市民公共セクターをつくる会	170
米国市民活動の日本向け情報誌"GAIN"の発行と同誌をテキストにした連続セミナーの開催 (継2)		柏木 宏 他10名	日本太平洋資料ネットワーク(JPRN)	200
日本のHIV感染者が必要とする情報の収集と提供		井上 洋士 他 9名	HIVと共に生きる会	160
市民参加で検証するふるさとの海の現状と未来への展望		中村 勝彦 他11名	唐津の海を守ろう市民の会	120
市民活動助成合計		9 件		1,530

1993年度 国際助成の選考を終えて

国際助成選考委員長 石澤良昭

◎選考結果の概要

国際助成に関する打診は一年間を通して受け付けているが、選考は7月と8月の2回の選考委員会で行われた。今回の本助成への打診は541件あったが、そのうち国際助成の対象地域(東南アジア)と対象テーマ(固有文化の保存と振興)からみて、選考委員会の審査の対象となった申請は131件、一方審査の対象とならないものが410件あった。

そして選考の結果、91件、886,900ドルが採択となった。その国別内訳は、ビルマ1件、カンボジア4件、インドネシア19件、ラオス5件、マレーシア15件、フィリピン18件、タイ6件、ヴェトナム23件となっている。

◎選考方法について

国際助成は、選考委員会の審査の対象となる申請についてはすべて財団のスタッフが申請者にインタビューし、補足情報を収集することになっている。

選考委員会では、申請書とスタッフからの報告をもとに、7人の選考委員で選考を行った。これらの委員は東南アジア各国を専門とする研究者であると同時に、この助成が対象としているテーマによってカバーされる専門分野(ディシプリン)の専門家である。審査は2つの視点、すなわち、当該国の研究状況の中での申請プロジェクトの意義、さらに専門分野の方法論の適切性から行われる。限られた時間内に多くの申請を効率よく、しかも丁寧に議論することが

要求されるが、この点は微妙なバランス感覚が必要である。

◎今年度の傾向について

今年度も昨年度に引き続き、ヴェトナムへの助成が最多数23件となった。選考委員会の審査の対象となった申請件数も41件と最も多かった。助成対象者の所属機関の多様化の傾向はさらに強まり、ヴェトナム中部では、昨年度助成対象となったフエ大学や、ホイアン史跡管理事務所等のほかに、クアンナム・ダナン省文化情報部やダナンのチャンパ彫刻博物館、等も初めて助成対象となった。カンボジアのプロジェクトへの助成も着実に増えており、アセアン諸国とは状況の異なるインドシナ諸国への対応をどう考えて行くかは今後の課題である。

◎マレーシア東南アジア研究奨励助成について

東南アジアにおける若手の研究者による東南アジア研究の促進を図ることを目的として、昨年度より「マレーシア東南アジア研究奨励助成」を開始した。マレーシアでは、東南アジア研究で修士号や博士号がとれることを鑑みて、マレーシアの大学に籍を置く東南アジアの若手の研究者を対象に公募を行い、16件の申請があり、継続4件、新規7件の助成を決定した。助成対象者はマレーシア人だけでなくインドネシア、フィリピンおよびヴェトナムからの留学生も含まれている。

1993年度 国際助成対象一覧

ビルマ [1件: 17,200ドル]

注 研究題目末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
1	コンバウン中期(1782年-1846年)のビルマ農村社会の社会経済状態	ウー・トゥン・イー	愛知学院大学大学院 客員教授	17,200
カンボジア [4件: 62,000ドル]				
2	音楽とクメール人の生活 (継2)	K. ナロム	芸術大学 教員	9,000
3	パーリ語クメール語辞書の再版と配布 (継2)	O. ケム	仏教研究所 所長	25,000
4	両世界大戦間(1919年-1940年)のカンボジア社会の発展	S. サムナン	プノンペン大学歴史学部 学部長	7,000
5	古クメール語辞書の出版	N. ナラン	クメール文明ドキュメンテー ション研究センター 所長	21,000
インドネシア [19件: 120,900ドル]				
6	『スラカルタのフォルステンランズ・タバコ栽培とブスキのブスキ・タバコ栽培: その地域社会への影響、1860-1960年』の出版 (継4)	スギヤント P.	ガジャマダ大学文学部歴史学 科 講師	5,000
7	西ジャワ、タゲランのチブタット地域の宗教・社会変化に関する研究 (継2)	アミヌディン R.	シャリフ・ヒダヤトゥラ国立 イスラム高等学院 講師	2,500
8	ビマ文化の保存: ビマ年代記、テキストおよび口承伝統の翻字と翻訳 (継2)	ヘリウス S.	バンドゥン教育大学社会教育 学部歴史学科 上級講師	8,000
9	スダ文化百科事典 (継4)	アイップ R.	作家	4,600
10	バリの貝葉文献ロンタルのマイクロフィルム撮影 (継2)	I. G. N. R. ミルジャ	バリ州立バリ文化記録局 局長	9,900
11	バリのクレジット組織の発展: 1859-1973年 (継2)	I. B. シデマン	ウダヤナ大学文学部歴史学科 講師	2,600
12	インドネシアの老人のライフスタイルと生きがいに関する研究 (継2)	クンチャラニングラット	インドネシア大学 社会人類 学 名誉教授	27,000
13	フローレスの地方語(リオ語、シッカ語、ンガダ語)の機能 (継2)	アロン M. ムベテ	ウダヤナ大学文学部 講師	3,900
14	歴史ジャーナル『歴史: 思想、再構築、認識』の発行 (継3)	イブヌ Q.	インドネシア科学院 研究員	3,900
15	マルク諸島タリアブ島のマゲイ族の農耕(バセル)文化 (継2)	エリサ R.	パティムラ大学教育学部 講師	4,100
16	プサントレンの指導者: アチェにおける伝統と近代のはざま	ムハマド G. I.	ジャクアラ大学教育学部歴史 学科 講師	3,900
17	クトブラック: 現代ジャワにおける過去の政治学	ブディ S.	リアリノ研究所 所長	7,500
18	南スマトラの未開部族クブ族の民俗誌研究	アフマッド R.	スリウィジャヤ大学調査セン ター社会文化調査プログラム 主任	7,400
19	インドネシア語の語彙アクセントとそのスピーチ上の実現	ラハユ S. H.	インドネシア大学研究所人文 社会科学センター 研究員	5,600
20	南スマトラの鉱業史 1890年-1940年	バンバン P.	ガジャマダ大学文学部歴史学 科 講師	3,300
21	現代ワヤン芝居: ジャワにおけるその発展と分布	ウマル K.	ガジャマダ大学文化研究セン ター 所長	6,000
22	西カリマンタン、サンガオ島のリブン・ダヤック族の伝統医療にみられる知識体系	ムディオノ	タンジュンプラ大学社会政治 学部 教授	7,000
23	スダ貴族メナックに対する西欧教育のインパクト	ロフィアティ W.	バンドゥン教育大学社会教育 学部歴史学科 講師	4,700
24	シンカワンの伝統陶器: その歴史と文化遺産としての意味	スダルト	ポンティアナク教育高等学院 上級講師	4,000

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No. 66

ラオス [5件 : 135,400ドル]

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (ドル)
25	ラム・シタンドン歌謡の研究 (継2)	トンカム O.	情報文化省文学局局長 準教授	11,700
26	ラオ慣習法貝葉文献の翻字 (継3)	サムリット B.	情報文化省ヴァナシン雑誌 顧問	8,700
27	カンボジア語-ラオ語辞書の編纂 (継5)	マハ・カンパン V.	カンボジア語-ラオ語辞書編 纂委員会 委員長	70,800
28	民話、格言、歌謡にみられるフモン族の伝統の研究 (継2)	ネン X.	情報文化省ヴァナシン雑誌 副編集長	4,700
29	貝葉文献のインヴェントリー作成 (継6)	ダラ K.	情報文化省ヴァナシン雑誌 所長	39,500

マレーシア [4件 : 49,800ドル]

30	東南アジアの学校および高等教育機関での音楽教授のプロセス	タン S. B.	マレーシア科学大学芸術セン ター 所長	15,100
31	マレー古典文学に登場する外国人のビブリオグラフィー	アブ・ハサン M. S	マラヤ大学人文社会科学部マ レー研究課 助教授	5,600
32	スルー海の漁業	モハマド・ラドゥアン M. A.	マラヤ大学人文社会科学部東 南アジア研究課 助教授	10,500
33	マレー文書	アブドゥラー Z. B. G	マラヤ大学マレー研究アカデ ミー 助教授	18,600

フィリピン [18件 : 175,000ドル]

14	イロイロ州の20世紀の経済史 (継2)	H. F. フンテッチャ	フィリピン大学ヴィサヤ校西 ヴィサヤ研究センター 所長	5,300
15	スペイン植民地時代に関する未出版の古文書の調査、翻字、 翻訳、出版 (継5)	V. B. リクアナン	フィリピン歴史文化保存ナシ ョナル・トラスト 副会長	18,700
16	エリオ・コレクション：ミサミス・オリエンタルの地方史の ための資料 (継3)	F. B. デメトリオ	セイヴィヤー大学博物館 館長	16,400
17	マギンダナオ族の慣習と信仰 (継2)	E. R. ディソマ	ミンダナオ州立大学社会・ 人文学部 準教授	3,000
18	輸出経済における外資会社の役割：1920年から1949 年のピルマの米とフィリピンの砂糖に関して (継2)	M. S. I. ジョクノ	フィリピン大学社会科学・ 哲学学部歴史学科 準教授	12,700
19	フィリピンの地方史に関するスペイン語古文書の調査 (継4)	M. B. D. アランパイ	デ・ラ・サル大学歴史学部 準教授	11,700
20	フィリピンのイスラム芸術と建築：土着と現代 (継4)	R. N. カニェーダ	ミンダナオ研究所 ディレクター	2,700
21	ミンダナオの山岳民族の環境保全に関する民族生態学的慣習 (継4)	H. K. グロリア	アテネオ・デ・ダバオ大学 社会科学部歴史学科 教授	900
22	モロランドの20世紀の民族史 (継3)	F. V. マグダレーナ	ミンダナオ州立大学マミト ウア・サベール研究センター 所長	12,800
23	フィリピン諸語辞書 (継8)	E. コンスタンティーノ	フィリピン大学社会科学・ 哲学学部言語学科 教授	4,600
24	生態と環境の問題への社会・文化的アプローチ：イフガオ族 のライス・テラスの事例 (継3)	S. D. マヒウォ	フィリピン大学アジア研究所 準教授	14,700
25	ヒガンテス島の民族誌：人間活動のシステムとエコロジカル ・セル (継2)	C. N. ザヤス	フィリピン大学社会科学・ 哲学学部人類学科 助教授	11,900
26	アルシーナ文献(ヴィサヤ地方についての歴史書)の現代表 記への書き換え、翻訳、注釈作成、出版	R. B. ハヴェリャーナ	アテネオ・デ・マニラ大学 文理学部コミュニケーション 学科 講師	18,400
27	ヴィサヤ3言語の文学・芸術用語辞書	E. K. アルブーロ	サンカルロス大学セブアノ 研究センター 研究員	6,700
28	モロとフィリピンのナショナリズム：歴史的検討	M. R. タワゴン	ミンダナオ州立大学歴史学科 教授	2,300

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.66

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
49	フィリピン憲法の発展、1935年-1987年：歴史と法的解釈	J. G. ベルナス	アテネオ・デ・マニラ大学 法学部 教授	8,000
50	フィリピン南部のモロの人々の土地利用、資源利用の固有の パターン	M. L. フィアンザ	ミンダナオ州立大学 助教授	11,900
51	フィリピン人のディアスポラ：移住とインドネシア北部への 定住	E. T. クリヤマール	アテネオ・デ・マニラ大学 歴史・政治学部 準教授	12,300
タイ [6件： 71,800ドル]				
52	チェンマイ-ランブンプン盆地の古代集落 (継3)	サラスワディー O.	チェンマイ大学人文学部歴史 学科 助教授	2,800
53	タイ・ルー族の織物の比較研究 (継2)	ソンサク P.	チェンマイ大学芸術文化セン ター 助教授	16,800
54	東北タイのクメール遺跡の土地利用と文化的変遷 (継3)	タダ S.	コーンケン大学建築学部 講師	20,800
55	ビルマにおけるタイ(シャン)文字の歴史と発展 (継2)	サイ・カム・モン	アユタヤ歴史研究センター 上級研究フェロー	21,500
56	チャオ・プラヤ・デルタとメコン・デルタの比較研究：土地 の状況と歴史的発展 (継2)	ナロン T.	チラーロンコン大学理学部地 理学科 準教授	2,000
57	ヤオ族の漢字の読み書きの社会的インパクトと宗教に関する 国際会議：その儀礼の起源と歴史	テラパン L. T.	ヤオ研究国際協会タイ支部 実行委員会 メンバー	7,900
ヴェトナム [23件： 205,700ドル]				
58	ヴェトナムの編年学、永久暦、および累積暦 (継2)	L. T. ラン	ヴェトナム国立科学センター システム経営研究所 教授	7,900
59	ヴェトナムの伝統演劇、ハッポイの辞典 (継2)	N. ロック	ホーチミン市大学文学・言語 学科 学科長	17,200
60	フエ美術館所蔵美術品の研究とカタログの出版 (継2)	T. C. グエン	フエ歴史的建造物保存センタ ー 所長	9,200
61	カオダイ教 (継2)	D. N. ヴァン	ヴェトナム国立社会人文学 センター宗教研究センター 所長	8,500
62	大学レベルの東南アジア研究の教授カリキュラムの改善 (継2)	P. D. ズオン	ヴェトナム国立社会人文学 センター東南アジア研究所 所長	9,900
63	「国際会議：現代生活における伝統的祭」のプロシーディ ングスの印刷 (継3)	L. H. タン	ヴェトナム国立社会人文学 センター 所長	2,000
64	フエの伝統工芸 (継2)	N. H. トン	フエ大学考古学・民族学 科 学科長	5,800
65	ヴェトナムのジャーナリズムの歴史：1865年-1990年 (継3)	H. M. ドウック	ハノイ大学ジャーナリズム学 部 学部長	4,800
66	クアンナム・ダナン省ホイアンのサーフィン甕棺文化の考古 学発掘 (継2)	N. D. ミン	ホイアン史跡管理事務所 副所長	25,000
67	現代チャム語-ヴェトナム語、ヴェトナム語-現代チャム語 辞書 (継3)	B. K. テ	ホーチミン市大学ヴェトナム ・東南アジア研究センター 所長	8,000
68	ヴェトナムのフモン族 (継2)	P. Q. ホアン	ヴェトナム国立社会人文学 センター民族学研究所 研究員	9,900
69	ヴェトナムの地簿コレクションの詳細な検討 (継2)	N. D. ダウ	ホーチミン市社会科学委員 会 メンバー	20,700
70	ブル語-ヴェトナム語-英語辞書	V. H. レ	フエ大学言語学科 学科長	4,700
71	ヴェトナムの文化と文明の研究への貢献：グエン・ヴァン・ フエンの全作品の出版	N. D. ジェウ	ヴェトナム国立社会人文学 センター出版局 局長	7,500
72	ヴェトナムのラグライ族の文化と社会	P. X. ビエン	ヴェトナム国立社会人文学 センターホーチミン市社会科 学研究所 教授	6,800
73	戯作者・演出家、グエン・ヒエン・ディンとクアンナム・ダ ナン省の伝統演劇トウオンの発展	H. H. ホック	クアンナム・ダナン省文化情 報部 部長	7,400

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No. 66

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
74	ヴェトナムの少数民族、チュ族	N. V. マイン	フエ大学歴史学部民族学科 講師	1,900
75	古代チャンパ王朝の芸術と文明の研究	T. K. フオン	チャンパ彫刻博物館 学芸員	20,100
76	17世紀から1975年までの両ヴェトナムの仏教	T. H. リエン	ヴェトナム国立社会人文科学 センターホーチミン市社会科学 研究所 研究員	2,800
77	北ヴェトナム中部の自然環境の再生と保護を伴いながら社会 経済開発を行ういくつかの典型的モデルの構築	N. N. トゥアン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター社会経済地理センタ ー 所長代理	7,800
78	村神に関する文書の保存とドキュメンテーション	L. V. トアン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター社会科学情報研究所 所長	8,500
79	ホーチミン市の女性労働者の雇用問題の実情と雇用創出のため のいくつかの基本的方向性	B. T. K. クイ	ヴェトナム国立社会人文科学 センターホーチミン市社会科学 研究所 教授	5,700
80	フエの民間信仰	T. D. ヴィン	フエ教育大学文学部 助教授	3,600

マレーシア東南アジア研究奨励助成 [11件: 49,100ドル]

81	東スマトラとマレー半島のハドゥラーの比較研究 (継2)	ライラン M.	マラヤ大学東南アジア研究学 修士課程	5,400
82	"ドミサイル" から"ドメイン" へ: 独立後のフィリピン、 マレーシアの現代文学の代表作品の形成 (継2)	L. J. マラリ	マレーシア国民大学ムラユ言 語文学文化研究所 博士課程	7,800
83	マヨン: マレー世界の歌謡と芸術 (継2)	J. S. フェルナンド	マラヤ大学東南アジア研究学 科 修士課程	5,500
84	19世紀のタイ: 近代化の始まり (継2)	マラ・ラジョ S.	マラヤ大学歴史学科 修士課 程	1,600
85	1900年から1942年のマレーシアの英字新聞からみた 植民地支配の形態	V. T. T. グエット	マラヤ大学東南アジア研究学 科 修士課程	6,200
86	レゴン峡谷の旧石器遺跡とその東南アジア考古学への貢献	ムハマッド・モフタル S.	マレーシア科学大学 博士課 程	4,900
87	先史時代のニア-陶器の起源とその東南アジアにおける位置	ステファン C. M. S	マレーシア科学大学 博士課 程	8,100
88	感情の文化人類学的分類: マレー人とバリのイスラム教徒の 比較研究	ザイダー M.	マレーシア国民大学 博士課 程	3,200
89	シンガポール港のインフラストラクチャーの発展と拡大、1 819年-1941年	ハニザ b. I.	マラヤ大学東南アジア研究学 科 修士課程	2,400
90	シンガポールの防衛施設の発展とその防衛、1819年-1 927年	シティ K. M. S.	マラヤ大学東南アジア研究学 科 修士課程	2,400
91	発展する三角地域: ジョホール-シンガポール-リオウ	グルメト K. A. M. S.	マラヤ大学経済行政学部 修 士課程	1,600

国際助成小計

91 件

886,900

92 155	インドネシア若手研究者奨励研究助成 (対象一覧は省略)	64 件		127,200
----------------	-----------------------------	------	--	---------

国際助成合計

155 件

1,014,100

1993年度 「隣人をよく知ろう」プログラム

翻訳出版促進助成の運営および選考について

◎委員会を2回に分けて開催

今回は委員の都合がつかず、2回にわけての委員会開催となった。第1回委員会は飯島委員長、石井委員、箕輪委員が出席。第2回委員会は飯島委員長、辛島委員、小林委員が出席した。両委員会で本年度の申請案件について委員から多くの評価コメントを受けた。これをとりまとめて本年度の助成対象候補の事務局案を作成した。企画会議で、事務局案を報告・説明し、飯島委員長の了解を得た。これにより、各委員に事務局案の了解を求め、これを得た。

◎日本向け - 5カ年計画の3年目でスケジュールの再調整の必要性

平成3年度より開始した助成5カ年計画の3年目となる本年度は、一般的に計画からの遅れが目立ち始め、当初の本年度申請予定のうち2件が翻訳の遅れから申請を1年延期することとなった。既に助成が決定しているものも含めて、翻訳が当初予定から遅れるケースが多く、スケジュールの全般的な再調整の必要性が感じられている。

7月15日までに、平成5年度出版予定（平成5年11月～平成6年10月）の13件につき申請書を提出してもらった。申請金額合計 3,472万円。「隣人をよく知ろう」プログラム委員会にてこの13件を審議した結果、No. 8のインド音楽

の楽譜作成のための特別追加助成金額の算定に疑問があるとの委員会の意見があった。このため、事務局が申請者と協議し、54万円の減額で申請者と委員の双方の了解がとれ、この減額した金額を助成金額とすることとなった。助成候補の助成金総額は3,418万円。

◎アジア相互間

本年度は、17件46冊の申請があり、2回に分けて行われた「隣人をよく知ろう」プログラム委員会で委員の評価・コメントを得て、事務局がこれをまとめて事務局案を作成、委員長をはじめ委員の了解を得た。助成対象候補は13件24冊（助成金額合計、169,800ドル）となった。今年度の特徴として、日本人研究者の東南アジア研究の成果を東南アジアで翻訳出版することにより還元する性格のものが4件と多かった。また、南アジアでの日本の絵本の翻訳出版が、インドに引き続き、本年度はパキスタンとスリランカで始まった。

委員からは、プログラム対象地域での出版産業や関連する分野についてのアップトゥデートなまとまった調査の実施を求める声があり、今後検討することとなった。

（国際助成部門 牧田・記）

1993年度 『隣人をよく知ろう』プログラム助成対象一覧

「翻訳出版促進助成」日本向け [13件; 3,418万円]

No	日本語仮題名(国名)	訳者名	出版社名	助成金額(万円)
1	海底火山 (スリランカ)	中村 禮子 スーシーウィターナ	段々社	196
2	虚構の楽園 (ヴェトナム)	加藤 栄	段々社	237
3	インドにおける発展の政治経済学 (インド)	近藤 則夫	勁草書房	86
4	シンガポール経済の政策選択 (シンガポール)	岩崎 輝行 森 健	井村文化事業社	573
5	マレーシアの抗日文学-マレー文学・華語文学に見る大東亜戦争- (シンガポール)	原 不二夫 今仁 直美	井村文化事業社	153
6	最後の首長-カラーコルムに激動の時代を生きた政治家貴族の目伝 (パキスタン)	子島 進 麻田 豊	勁草書房	166
7	花を担いで (ヴェトナム)	片山須美子	穂高書店	125
8	ヒンドゥスターン音楽大系 上・下巻 (インド)	田中多佳子 井上 賢子	穂高書店	553
9	さとりへの道 (インド)	中谷 英明	平凡社	181

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.66

No	日本語仮題名(国名)	訳者名	出版社名	助成金額 (万円)
10	インド古典正統論理学派の哲学 (インド)	竹中 智泰	平凡社	252
11	ブリハットサンヒター (インド)	矢野 道雄 杉山 瑞枝	平凡社	224
12	フィリピン研究入門 1, 2 (フィリピン)	寺田 勇文明 玉置 淳子 赤石 暁ほか	めこん	560
13	ミール詩集 (パキスタン)	松村 耕光	平凡社	112

「翻訳出版促進助成」アジア相互間 [13件: 169,800ドル]

注 プロジェクト名末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。

No	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
1	<i>Thailand: Buddhist Kingdom as Modern Nation State</i> のインドネシア語への翻訳と出版 (継6)	M. サストラプラテジャ	カルティ・サラナ財団 副理事長	7,400
2	<i>Stories from TENGGARA</i> のマレーシア語への翻訳と出版 (継4)	アブバカル H.	学術振興財団 理事長	8,700
3	<i>Folk Tales from Asia for Children Everywhere Book 2, 3, 4, 5, 6</i> のラオ語への翻訳と出版 (継2)	フンバン R.	情報文化省文化研究所 所長	18,100
4	<i>Japan-Indonesia Relations in the Pre-war Showa Period</i> (『昭和期日本とインドネシア』) のインドネシア語への翻訳と出版	モフタル ルビス	オボール財団 理事長	9,000
5	<i>The Political Economy of Japan Vol. 3</i> のヴェトナム語への翻訳と出版 (継7)	V. D. ルオック	国立社会人文科学センター 世界経済研究所 所長	13,000
6	<i>A History of Japan Vol.2</i> のヴェトナム語への翻訳と出版 (継7)	N. D. ジェウ	国立社会人文科学センター 社会科学出版局 局長	13,000
7	<i>Transfer of Japanese Technology and Management to the ASEAN countries</i> のヴェトナム語への翻訳と出版 (継5)	N. T. ミ	国立社会人文科学センター 東南アジア研究所 研究員	9,500
8	<i>The Setting Sun</i> (『斜陽』) のベンガル語への翻訳と出版 (継4)	F. ラッピ	アフメッド記念財団 専務理事	4,100
	<i>Twilight in Djakarta</i> のベンガル語への翻訳と出版 (継4)			4,900
9	<i>The Anatomy of Dependence</i> (『甘えの構造』) のタイ語への翻訳と出版 (継2)	チャンウィット K	社会科学・人文科学教科書 プロジェクト推進財団 事務局長	5,000
	<i>Japanese History Cartoon Vol.12, Vol.14, Vol.16</i> のタイ語への翻訳と出版 (継2)			6,000
10	<i>An Age in Motion: Popular Radicalism in Java, 1912-1926</i> のマレーシア語への翻訳と出版 (継2)	ジョモ K. S.	フォーラム	10,400
	<i>Malays in Singapore: Culture, Economy, and Ideology</i> のマレーシア語への翻訳と出版 (継2)			6,700
11	<i>Japanese Women Writers</i> のウルドゥ語への翻訳と出版 (継3)	S. アンシャリ	マシヤル財団 事務局長	6,000
	<i>A Road with No Ends</i> のウルドゥ語への翻訳と出版 (継3)			6,200
	<i>Naughty Koko</i> (『わからんちんのココ』) 絵本のウルドゥ語への翻訳と出版 (継3)			9,900
	<i>Suho White Horse</i> (『スーホの白い馬』) 絵本のウルドゥ語への翻訳と出版 (継3)			9,900
	<i>Guttonous Hanako</i> (『くいしんぼうのはなこさん』) 絵本のウルドゥ語への翻訳と出版 (継3)			10,000
12	<i>Japanese Relation With Vietnam:1951-1967</i> のヴェトナム語への翻訳と出版	L. V. サン	ヴェトナム・アジア太平洋 経済センター 所長	8,000
13	<i>Urashimataro</i> (『浦島太郎』) 絵本のシンハラ語への翻訳と出版 (継7)	D. A. ラジャカルナ	日本文学翻訳委員会 委員長	4,000

最近の報告書から

下記の報告書が印刷物になりました。
入手希望の方は、送料分の切手を同封の上、「財団レポート係」まで封書にてお申込み下さい。

『日本占領期インドネシア年表』(深見純生・編、インドネシア史研究会・発行、B5判 428頁、'93.7、送料380円)

インドネシア日本占領期史料フォーラム(幹事・後藤乾一)は、旧日本軍占領下のインドネシアに関する様々な史料および関係者の口述記録等を収集・保存することを目的としており、既に『証言集：日本軍占領下のインドネシア』(龍溪書舎・刊行)と題する日本人関係者の口述記録を出版している。また、史料の総合目録の出版も予定されている。

この『日本占領期インドネシア年表』は、史料フォーラムの主要メンバーである摂南大学の深見氏が作成した1942年3月9日から1945年8月17日までの約3年半の日本軍によるインドネシア占領期の出来事を、同時代史料に基づき一日単位の年表にしたものである。

口述記録の作成で最も困難であったのは、証言者の記憶の細部の間違いを校正する作業であったという。そのこともあってか、作成にあたっては約7年を要したという労作である。

この年表は占領期の正確なクロノロジーを確立するという点で非常に貴重である。占領期研究にとって地味ではあるが非常に大きな一歩を踏み出すものといえよう。

なお今回の出版に際しては、当財団の成果発表助成が、また元となった研究には計画助成が行われた。

(T.M.)

多様性のある社会構築をめざして

市民活動の意義と今後のあり方を考える

連続フォーラムをスタート!

近年、ボランティア活動やNGO活動など、従来の行政や企業活動などとは異なる論理や意識にもとづく様々な活動が、各地で主体的かつ活発に展開されています。

こうした民間の非営利で公共的な草根活動(市民活動)の一つひとつは、未だ小さな動きではあるものの、その意義と役割には大きなものを感じます。また、それらの基本を成す温かい人間性や真摯な情熱には、現在の地域や社会で失われつつあるものを見出すこともでき、今後の個人や社会のあり様を考えていくうえで欠くことのできない存在として、益々重要視されていくものと思われま

す。今では多くの人々にその存在が知られるようになり、さまざまな人や機関による関わりや支援などが増してきたこうした活動ですが、日本ではそれらを理解し、支える状況が依然として未発達のみであるのみならず、活動団体自体の見えにくさや脆弱性などが、活動の有意義な成長と広がりを阻む要因となっているものと考えられます。



そこで今回、様々な地域の関係者や団体とともに、この様な活動の意義と今後のあり方等について、多角的な視点からの論議を幅広く積み重ねていくことにより、一人ひとりが様々な形で地域をみつめ、個人や社会全体のあり様を考え、行動していくための契機とすることを目的としたフォーラム(「市民活動リンクアップフォーラム」)を連続して実施していくこととなりました。

これにより、市民活動の社会的位置付けを確立し、心豊かで人間性ある柔軟な社会の創出に向けた指針が、様々な形で数多く提供されることを大いに期待したいと考えています。

なお、第1回のフォーラムについては、下記の通り開催予定。(渡辺・記)

市民活動リンクアップフォーラム in 広島
ひろげよう草の根市民活動!
日本が広島からかわる!~多様性のある社会構築をめざして~

<日時> 1993年11月27日(土)
13:00~17:30

<場所> 広島県民文化センター

<主催> 市民公益活動研究会、(財)トヨタ財団

<共催> 日本ネットワークワーカーズ会議、中国・地域づくり交流会

[基調講演]
“多様性ある社会構築へむけて~市民活動の意義と役割~”
栗原 彬 立教大学教授

[事例報告]
“地域における新たな胎動”
- 4件程度 -

[ディスカッション]
“地域をみつめ、社会を考えるために~市民活動への期待と課題~”
(同会)吉永 宏 日本YMCA同盟広報室長

* * *

参加ご希望の方は、フォーラム事務局(中国・地域づくり交流会 ☎082-223-2414/中村)までご連絡を。

あなたも
参加して
みませんか

トヨタ財団 第7回市民研究コンクール

“身近な環境をみつめよう”

公募のご案内

- ◇市民が主体となった研究のコンクールです。テーマは「身近な環境」に関することならなんでも構いません。
- ◇本年10月15日から1994年1月15日までの間に、研究計画を公募します。
- ◇応募された研究計画書にもとづいて選ばれた15グループ程度に対して、予備研究助成金60万円(上限)を贈呈いたします。各チームには8ヶ月間予備研究を実施していただきます。
- ◇さらに予備研究の成果にもとづい

て選ばれた数グループに対して、本研究助成金400万円(上限)を贈呈いたします。各チームには2ヶ年の本研究を実施していただきます。

◇本研究終了後、研究成果をもとに最優秀賞1件、優秀賞2件程度を選出し、それぞれ賞碑ならびに賞金を贈呈します。

◇なお、このコンクールに応募できるのは複数のメンバーによる共同研究チームであり、個人では応募できません。

応募方法

- 応募ご希望の方は、「応募用紙希望」と明記の上、送料分の切手を同封し、封書にて「市民研究コンクール係」宛てお申し込みください。
- (1部・250円、2～3部・360円)
- #### 助成期間等
- ◇予備研究期間：1994年4月～
約8ヶ月間
 - ◇本研究期間：1995年4月～
2年間
 - ◇「賞」の決定：1997年10月上旬頃

新しい人間社会をめざした 募集 市民活動に関する プロジェクト

トヨタ財団では引続き、市民社会の基盤づくりに役立つ種々のプロジェクトに対して助成を行います。創造的で先見性のある活動を行っている団体からのご応募をお待ちしております。

●助成の対象となるプロジェクト

1. 一定の分野・地域における活動拠点や団体の基盤整備等
2. 他の分野の活動を一定期間にわたって体験するための人的交流
3. 複数の活動団体相互の連携による集会の開催・運営等
4. 多くの活動団体を対象とした情報紙・誌の編集・発行
5. これまでの活動に関する記録の作成
6. すでに作成された活動記録等の出版
7. 市民活動全体の支援を旨とした調査・研究
8. その他

●公募期間

今回(第2期)は、1993年10月15日から12月15日まで(必着)

●助成金

左記6項(出版)以外は1件につき200万円程度とします。(出版の場合は原則として100万円程度)

●助成期間

第2期は、1994年4月1日より原則として1年間とします。(助成の決定は1994年3月下旬頃の予定)

●申請用紙の申込み

「プロジェクト」または「出版」の別を明記し、送料分の切手を同封のうえ、12月8日までに「市民活動助成係」宛てお申し込みください。

(1部・250円、2～3部・360円)

新刊紹介

国際社会学叢書 [アジア編-6]
『第三世界におけるもうひとつの発展理論—
タイ農村の危機と再生の可能性—』
鈴木規之著
国際書院・刊(93.10)
A5判 221頁、3,200円(税込)

タイは、年率10%を越える経済成長に
ありながらも不平等化の拡大、消費主義
の蔓延、地域文化の衰退、環境破壊の問
題などさまざまな社会変動が生じている。
こうした中、本書では「資本主義の浸透
による商品化によってもたらされた農村
の変動」を主要テーマとしている。

ウォーラステインの「世界システム
論」を分析の枠組みとして、こうした状
況の説明として、「世界システムとの接
触=商品化の進行
(流通システムの発
達によってもたらさ
れる)が、第三世界
において不平等化を
拡大させる」という
仮説をたてている。



この仮説を実証すべく、農村を①近郊型
農村②出稼ぎ型農村③工業団地隣接型農
村、という3つの理念型を設定し、変動
のプロセスを具体的に調査している。

著者は、世界システムへの包摂という
外在的契機が人々の欲望という内在的問
題を生じさせることから農村崩壊のプロ
セスをたどる、ということを実証的に示
しつつ、この農村崩壊のプロセスに対抗
する戦略として、人間の内在的問題に着
目した「プクタート」(欲望と心の発展)
の精神にもとづいたオータナティブな発
展を提示している。

資本が進出すればするほど、都市部と
農村部の経済的格差が拡がり、放置して
おけば農村部も消滅の途を辿るであろう。
こうしたジレンマに対して、システム
云々という外部的な話しだけではなく、
「個々の欲望を抑制する」という人間の
内面的な変化に期待したいという著者の
意見に思わず同意してしまうのは小生だ
けだろうか。

本書は、1989年度のトヨタ財団助成に

よる研究「タイの社会変動と不平等の拡
大—中間層の出現とその役割を中心
に—」がもととなっている。

(K.T.)

日本語研究叢書6
『在日・在米韓国人および韓国人の言
語生活の実態』
任 栄 哲著
くろしお出版・刊(93.4)
A5判 277頁、3,800円(税込)

本書は、在外韓国人および韓国人2千
人あまりを対象に調査を行い、彼等の言
語生活について、社会言語学的な観点か
ら人口統計学的な属性との関係を分析し、
その実態を具体的に明らかにしたもので
ある。なお、1991年度のトヨタ財団助成
による「日本における異言語・異文化間
接触の社会言語学的研究」という研究が
もとになっている。

編集後記

▶政権交代がありました。だからという
わけではありませんが、今回から編集担
当が変わります。長い間のお付き合い本
当に有りがとうございました。

▶ところで、前回ご紹介した「記録・土
呂久」がこの程、「毎日出版文化賞・特別
賞」を受賞しました。関係者の方々とも
にも受賞の喜びを分かち合いたいもの
です。オメデトウございました。(G.W.)

▶クレーターをおこしたわけではありま
せんが、新たに政権(編集担当)につ
きました。少しずつなるとは思いますが、
いろいろ工夫を凝らしたいと考えてお
ります。よろしくお祈りします。(K.T.)

計 報

当財団の監事として長年にわたり
ご指導いただいております菊池稔
氏(東京海上火災保険株式会社相談
役)は、去る8月26日ご逝去されま
した。

氏の多大なるご功績を偲び、こ
こに心よりご冥福をお祈り申し上げ
ます。

第19回助成金贈呈式を開催

去る10月12日午後1時30分より、
第19回の助成金贈呈式を東京・新宿
区内のホテルにて開催した。今回、
助成の対象となられた方々や財団関
係者など多くの出席者を迎え、豊田
英二会長の挨拶、各選考委員長によ
る選考経過・報告の後、各助成の代
表者5名に助成金贈呈書が手渡され
た。

 トヨタ財団レポート No.66

このレポートを継続してご希望の方は、お葉書にて財団宛お申込みください。

発行日 1993年10月25日
発行所 財団法人 トヨタ財団
発行人 山口日出夫
編集者 田中恭一
印刷 真友工芸株式会社